



誰一人取り残されずに 健康を守れる世界を SDGs とともに考える

SDGs は世界の幅広い課題を解決するための多岐にわたるゴールが設定されています。世界の人々の健康を守るという視点で見ると互いに深く結びついています。SDGs でグローバルな視点を学び、個人の日常生活と健康の関係についても理解を深め、産業界が主導してヘルスケアイノベーションを活性化し、「誰一人取り残さなれない」人間中心の日常生活主導型ヘルスケアを持続可能な産業として達成すべきです。

2024年8月



SDGs

Sustainable Development Goals

SDGs とは？

持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）は、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された国際目標です。これらの目標は、2030年までに持続可能でより良い世界を実現することを目指しています。背景には、地球環境の破壊や格差の拡大など、世界が協力しなければ解決できない課題に対する危機感の高まりが存在します。

SDGsは17のゴールと169のターゲットから構成され、「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓

っています。これらの目標は、不平等の是正、気候変動への対策など、持続可能で包摂的な社会の実現を目指しています。

具体的には、貧困の撲滅（目標1）、飢餓の撲滅（目標2）、すべての人に健康と福祉を提供すること（目標3）、質の高い教育の提供（目標4）、ジェンダー平等の推進（目標5）、クリーンなエネルギーへのアクセス（目標7）などが含まれます。SDGsの達成には、政府、企業、市民社会などすべてのステークホルダーが協力して取り組むことが求められています。SDGsは、持続可能な未来の実現に向けた共通のビジョンであり、全ての人々が関与することでその目標に近づくことができると考えられています。

SDGsのゴールとは？

SDGsのゴールを簡潔に書き出します。

目標1：貧困をなくそう：あらゆる場所であらゆる形態の貧困を終わらせる。

目標2：飢餓をゼロに：飢餓を終わらせ、食料安全保障と栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。

目標3：すべての人に健康と福祉を：すべての人に健康的な生活を確保し、福祉を推進する。

目標4：質の高い教育をみんなに：すべての人に包括的で公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。

目標5：ジェンダー平等を実現しよう：ジェンダー平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る。

目標6：安全な水とトイレを世界中に：すべての人に水と衛生のアクセスを確保する。

目標7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに：すべての人に安価で信頼できる持続可能なエネルギーを提供する。

目標8：働きがいも経済成長も：包摂的で持続可能な経済成長、完全かつ生産的な雇用と働きがいのある仕事を提供する。

目標9：産業と技術革新の基盤を作ろう：持続可能な産業化を進め、技術革新とインフラを構築する。

目標10：人や国の不平等をなくそう：国内および国家間の不平等を是正する。

目標11：住み続けられるまちづくりを：包摂的で安全かつ持続可能な都市と人間居住を実現する。

目標12：つくる責任つかう責任：持続可能な消費と生産のパターンを確保する。

目標13：気候変動に具体的な対策を：気候変動とその影響に対処するための緊急対策を取る。

目標14：海の豊かさを守ろう：持続可能な海洋と海洋資源を保護する。

目標15：陸の豊かさを守ろう：陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用を推進する。

目標16：平和と公正をすべての人に：平和で包摂的な社会を促進し、すべての人に司法へのアクセスを提供し、すべてのレベルで効果的で説明責任のある制度を構築する。

目標17：パートナーシップで目標を達成しよう：持続可能な開発のためのグローバルなパートナーシップを活性化する。

健康という視点で見た SDGs

SDGs の 17 の目標は多く感じるかもしれませんが、すべてが深く関連しています。ヘルスケアの観点から見ると、

各目標の課題が健康に直接影響を与えていることがわかります。以下に、課題が健康へ与えている影響と課題解決による健康改善について簡潔に説明します。

健康という視点で見た SDGs

目標 1：貧困をなくそう：あらゆる場所であらゆる形態の貧困を終わらせる。

- 課題：貧困により、健康に必要な栄養、医療、住居へのアクセスが不足しています。
- 解決：貧困の撲滅により、これらの基本的なサービスへのアクセスを改善し、健康格差を減少させることができます。

目標 2：飢餓をゼロに：飢餓を終わらせ、食料安全保障と栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。

- 課題：飢餓や栄養不良が健康に重大な悪影響を及ぼし、特に子どもたちの成長を妨げています。
- 解決：飢餓の解消と栄養改善により、健康的な成長を支援し、多様な食糧を生み出す持続可能な農業が健康の基盤を築きます。

目標 3：すべての人に健康と福祉を：すべての人に健康的な生活を確保し、福祉を推進する。

- 課題：多くの人が健康的な生活と福祉サービスにアクセスできない状況があります。
- 解決：質の高い医療サービスの提供、疾病予防、母子保健の強化などを通じて、全体的な健康状態を向上させます。この目標を完全に実現するには、17 個

の目標の実現が必要です。

目標 4：質の高い教育をみんなに：すべての人に包括的で公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。

- 課題：多くの人々が健康に関する知識を持たず、健康的な生活習慣を身につける機会が限られています。
- 解決：健康教育を推進し、心身のしくみ、栄養、予防医療に関する知識を広め、健康的な生活習慣の促進と健康の自己管理を可能にします。

目標 5：ジェンダー平等を実現しよう：ジェンダー平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る。

- 課題：女性や女児が貧困に陥りやすく、健康的な生活を送る権利が阻まれています。
- 解決：ジェンダー平等を達成し、貧困のため健康的な生活を送れない女性と女児をなくします。

目標 6：安全な水とトイレを世界中に：すべての人に水と衛生のアクセスを確保する。

- 課題：多くの地域で清潔な水や衛生的なトイレへのアクセスが不足し、水系感染症（waterborne disease）のリスクが高まっています。
- 解決：清潔な水と衛生的なトイレの普及により、水系感染症を予防します。

目標 7：エネルギーをみんなにそしてクリー

ンに：すべての人に安価で信頼できる持続可能なエネルギーを提供する。

- 課題：エネルギー不足が健康的な生活を支える多くの生活器材や生活インフラや医療サービスに支障をきたしています。環境破壊を招くエネルギーは、長期的な気候変動や大気汚染により健康に良くない影響を与える恐れがあります。
- 解決：安価で持続可能なクリーンエネルギーの提供により、医療サービスや健康関連生活機能を維持すると同時に、気候変動や大気汚染を抑止します。

目標 8：働きがいも経済成長も：包括的で持続可能な経済成長、完全かつ生産的な雇用と働きがいのある仕事を提供する。

- 課題：安定した雇用と公正な労働条件がないと、ストレスや労働災害が増加し、心身の健康に悪影響を与えます。
- 解決：包括的で持続可能な経済成長と雇用の提供により、正当な収入と健康的な職場環境を確保し、心身の健康を支えます。

目標 9：産業と技術革新の基盤を作ろう：持続可能な産業化を進め、技術革新とインフラを構築する。

- 課題：医療技術とインフラが未発達である場合、質の高い医療サービスの提供が困難となります。

- 解決：ヘルスケアの持続可能な産業化と技術革新を進め、医療技術の進歩とインフラの整備により、誰もが安心して健康に暮らせる環境を作ります。
 - 解決：ヘルスケアの持続可能な産業化と技術革新を進め、医療技術の進歩とインフラの整備により、誰もが安心して健康に暮らせる環境を作ります。
 - 解決：持続可能な消費と生産を促進し、環境汚染を減少させることで、健康に良い影響をもたらします。
 - 解決：持続可能な消費と生産を促進し、環境汚染を減少させることで、健康に良い影響をもたらします。
 - 解決：陸域生態系の保護と回復により、清潔な水や空気、食料の安全性を保ち、健康を支えます。
 - 解決：陸域生態系の保護と回復により、清潔な水や空気、食料の安全性を保ち、健康を支えます。
- 目標 10**：人や国の不平等をなくそう：国内および国家間の不平等を是正する。
- 課題：地域や経済状況による医療の質とアクセスの格差が広がり、健康格差が生じています。
 - 解決：不平等の是正により、すべての人が医療サービスに平等にアクセスできるようにし、健康格差を縮小します。
- 目標 11**：住み続けられるまちづくりを：包摂的で安全かつ持続可能な都市と人間居住を実現する。
- 課題：不適切な住環境が健康リスクを高め、安全で健康的な生活が難しくなっています。
 - 解決：包摂的で安全かつ持続可能な都市と住環境を整備し、健康で安全な生活の基盤を確保します。
- 目標 12**：つくる責任つかう責任：持続可能な消費と生産のパターンを確保する。
- 課題：持続可能でない消費と生産は、環境汚染を引き起こし、健康に悪影響
- 目標 13**：気候変動に具体的な対策を：気候変動とその影響に対処するための緊急対策を取る。
- 課題：気候変動は、気象災害や熱波、病気の拡散を引き起こし、健康を脅かします。
 - 解決：気候変動への対策を強化し、気象災害の予防と対応により、健康を守ります。
- 目標 14**：海の豊かさを守ろう：持続可能な海洋と海洋資源を保護する。
- 課題：海洋資源の乱獲や汚染が、健康に有害な化学物質の増加と海洋食品の安全性低下を招き、海洋栄養源の喪失の危機にさらされています。
 - 解決：海洋資源の保護により、有害物質を減少させ、海洋食品の安全性を確保し、持続可能な漁業を推進して栄養供給を安定させます。
- 目標 15**：陸の豊かさを守ろう：陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用を推進する。
- 課題：陸域生態系の破壊は、クリーン
- 目標 16**：平和と公正をすべての人に：平和で包摂的な社会を促進し、すべての人に司法へのアクセスを提供し、すべてのレベルで効果的で説明責任のある制度を構築する。
- 課題：暴力や不公正は、心身の健康に深刻な悪影響を及ぼします。
 - 解決：平和で包摂的な社会を促進し、暴力やストレスを減少させ、健康的な生活を支えます。
- 目標 17**：パートナーシップで目標を達成しよう：持続可能な開発のためのグローバルなパートナーシップを活性化する。
- 課題：健康に関する知識と技術の共有が不足していると、国際的な健康目標の達成が難しくなります。
 - 解決：グローバルなパートナーシップを活性化し、知識と技術の共有を促進することで、健康目標の達成を支援します。国際的な協力とステークホルダー間の協力によりヘルスケア産業の健全な発展を図ります。

誰一人取り残さずに健康を守る世界を生み出すには

SDGs に向けた組織的取り組みの不足

誰一人取り残さずに健康が守られる世界をつくるには、さまざまな領域の課題へのアプローチが必要であることがわかりました。それだけに、個人的な力や一企業、あるいは一国ではとうてい達成できないことも明らかです。すべての国の協力、あらゆる企業の連携、すべての個人の

取り組みが求められます。しかし、この大きな世界連携、無数の個人の取り組みをどのように組織だて、ネットワーク化し、機能させていくかは答えがありません。

SDGs への取り組みは任意である

SDGs の取り組みは、国連サミットで合意された各国における開発目標です。あくまで努力目標であり、その努力は各国や各企業、そして個人に任されています。推進に責任を負う存在もありません。この任意性が、SDGs の取り

組みが期待通りには進んでいない原因の一つと考えられます。こうした自主性が必要な SDGs 達成に推進力を生んでいくためには、企業や個人を引き付ける工夫や仕掛けが必要だと思います。

シンプルで目指しやすい目標が必要

世界を見渡すと、メリットがわかりやすい目標があると、推進力が生まれやすいようです。例えば、電気自動車（EV）への加速は目に見えてわかりやすいものでした。今踊り場がありますが、テスラがEV普及の先頭を切り、グローバルな自動車メーカーはEV開発に注力しています。中国のBYDは、テスラを脅かすほどEV生産に拍車をかけています。EV購入も、欧米諸国と中国だけではなく、東南アジアの国でも普及の兆しがあります。間違いなく今後自動車はEVを中心として発展していくでしょう。そして、自動車の電動化の動きは、少なくとも3つの目標、すなわち、目標9「産業と技術革新の基盤を作ろう：持続可能な産業化を進め、技術革新とインフラを構築する」、目標12「つくる責任つかう責任：持続可能な消費と生産のパターンを確保する」、目標13「気候変動に具体的な対策を：気候変動とその影響に対処するための緊急対策を取る」の達成に貢献しているのです。多くの国、多くの企業、多くの人々が、共通の目標に向かって努力するには、このように誰の目から見てもわかりやすいシンプルな目標、誰もがメリットを理解して努力できるようなシンボリックな目標が必要と考えられるのです。

どの国も、どの企業も、誰もが協力したくなる健康のシンボリックな目標とは？

では、目標3「すべての人に健康と福祉を：すべての人に健康的な生活を確保し、福祉を推進する」に向かって国や企業や人々が協力して推進していくためのシンボリックな目標には何が考えられるでしょうか？まず、思いつくのは、医療のデジタルトランスフォーメーションです。2024年の世界経済フォーラムのレポート¹は、デジタル

技術、データ、AIがヘルスケアの課題を解決するために不可欠であり、全ての利害関係者（ステークホルダー）が協力して取り組む必要があると強調しています。これにより、より効率的で公平なヘルスケアシステムが実現されるとしています。これは、医療変革の進むべき方向性と実現の方法を見事にまとめた提言ですが、少しでも多くの企業や人々が参加するにはもの足りないのを感じます。その理由を一言で言うと、医療業界の利害関係者、すなわち、ヘルスケアプロバイダー、支払者（保険会社や国）、医薬品、医療技術、薬局などのサプライヤー、資金提供者（投資家など）、政府および規制当局、テクノロジー企業などが連携の対象となっていることです。いわば医療という伝統的に閉じた権威性世界というフレームに力点を置いた提言になっています。しかし、健康は人にとって最も基本的なものであり、医療業界のステークホルダーを超えて、もっと大きなフレームの中で協力・連携を可能にする目標を立てるべきです。

スマートヘルスライフ（SHL）

医療業界を超える、誰もが協力・連携したくなる目標は何が考えられるのでしょうか？言い換えると、EVのように産業界を巻き込み、人々が取り入れたいと思うプロダクトは何でしょうか？我々の答えは、EVほどわかりやすくはありませんが、一言で表現すると『スマートヘルスライフ』です。「スマートヘルス」とは、病院と地域とがデジタル技術、医療情報、ビッグデータなどを活用し、デジタル・トランスフォーメーション（DX）を推進し、健康寿命の延伸と医療・福祉サービスの向上を図る医療システムのことです（国立高度専門医療研究センター 医療研究連携推進本部）。近い言葉に、「デジタルヘルス」があります。スマートヘルスは必要とされる医療の変革で、世界経済フォーラムのレポートにある Healthcare Transformationの核になるものですが、先述したように、医療のステークホルダーに限定された取り組みです。こ

1. [Transforming Healthcare: Navigating Digital Health with a Value-Driven Approach](#)

のヘルスケアのデジタル変革を個人の日常生活にまで拡張する変革、より正確に言うと、ヘルスケアの中心に日常生活を置く改革を「スマートヘルス」に「ライフ」を付けて、『スマートヘルスライフ』としました。こうすることで何が異なるかという、ステークホルダーが、これまで医療とのかかわりが薄かった様々な生活関連企業も含め、幅広い産業へと広がります。具体的な例としては、生活のあらゆる場面で、すなわち自宅でも、車の運転中も、オフィスでも、街を歩いているときも、24時間心身の情報をモニターし、AIにより日々の病気になりにくい暮らし方にナッジしていく構想が考えられます。全産業をステークホルダーとして巻き込み、社会を挙げて人の健康を守る日常生活基盤を築いていこうという強い意志を持つ運動に発展する可能性を秘めます²。

健康における個人の日常という視点とグローバルな視点

目標3における健康を守るためには、個人の日常に焦点を当てるのが重要です。健康も病気も個人の体験であり、多くの病気は日常の心がけで予防できます。実際、健康と病気の原因は個人の日常生活が大きく影響し、これに生活環境、遺伝、加齢、感染症などの要因が続きます。遺伝、感染症は医療機関、研究機関、国やWHOが主役となって対策を講じます。個人の日常と生活環境は、貧困、飢餓、栄養不良、教育、ジェンダー平等、安全な水とトイレ、クリーンエネルギー、経済成長、海や陸の豊かさ、平和と公正な社会などのさまざまな外的要因に影響されます。これらの課題はSDGsの大部分を占めています。全ての人が健康を守る日常生活を可能にするためには、こうしたグローバルな課題を社会全体で解決することがまず必要とされます。一方で、食生活や運動などの健康のための生活習慣は、個人の力が必要です。貧困や飢餓、安全な水とトイレの問題がある程度解決され健康に良い生活を送ることが可能なはずの高所得国でも、健康的な日常生活を送れているとは限らず、現に生活習慣病が増加しています。これは、生活習慣のあり方が基本的に個人の自由に委ねられてい

るためです。日々の生活の送り方には、SDGsでははっきり謳われていない個人の内面という課題が存在することも忘れてはならないと思います。この課題を解決するためには、1つの解として技術革新によるスマートヘルスライフの実現が有望と考えています。無症状の段階から心や体の変調を可視化し、AIがナッジにより行動変容を導き病気の発症を防ぐというシナリオです。このシナリオは、目標9「産業と技術革新の基盤を作ろう：持続可能な産業化を進め、技術革新とインフラを構築する」に合致します。

国による違いを乗り越える全産業主導の健康開発

SDGsの目標を読むと、国によって改革の出発点が変わることがわかります。日本では出発点の段階から既に、目標2の飢餓、目標6の水とトイレはほぼ達成されています。他にも、部分的に達成されている目標も少なくありません。グローバルな視点で見ると、高所得国と中低所得国の間に各目標の達成度に大きな違いがあります。日本人にとって当たり前になっている食料や安全な水やトイレの確保から目指さなければならない国が低所得国のなかにある一方で、高所得国では、こうした基本的な生活条件はほぼ達成されているが、食生活のアンバランスや過度のアルコールなどによる生活習慣病が増加している現状があります。

このように、健康を守るための基盤となる生活環境が国により大きく異なっています。この違いを乗り越えて我々にできないかを考えることも重要です。SDGsでは、「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っています。国による違いを乗り越えて、誰一人取り残さずに健康を守る世界を生み出すにはどうすればよいか？我々の解、すなわち「テクノロジーの活用により、どこにいても日常の健康状態がセンシングされ、寄り添うAIにより心身の状態に応じた健康へ向かうナッジによって健康自己管理に導かれる未来」です。これにより、

2. さらに詳しくは、[PGPが描くヘルスケアの未来像](#)

個人の努力で守れる健康を最大化します。そして、最も重要なことは、このヘルスケアの未来像を実現する主役が、全業界の企業であることです。産業界が主導してこそ、ヘルスケアイノベーションが活性化され、「誰一人取り残さなれない」人間中心の日常生活主導型ヘルスケアを可能とする技術革新とインフラ構築が進み、ヘルスケアの真の持続可能な産業化が達成されると確信しています。逆に言うと、産業界は、ヘルスケアの未来像として、「誰一人取り残さなれない」人間中心の日常生活主導型ヘルスケアという方向性からぶれない企業活動を進めていく必要があると言えます³。

3. さらに詳しくは、[PURSUING TECHNOLOGY TO CREATE A WORLD WHERE EVERYONE'S MENTAL AND PHYSICAL HEALTH IS MONITORED: THE WORLD WATCHED OVER BY MOTHER AI](#)

著者について：板谷 正紀（President, Personal General Practitioner、東京）